

健やか未来都市ちばプラン 最終評価の概要

I 「健やか未来都市ちばプラン」最終評価の趣旨

「健やか未来都市ちばプラン」概要（平成25年度策定）（P1~P3）

1 プラン策定の目的

- 疾病の発症予防・重症化予防に重点を置いた健康づくり
- 親と子が健やかに暮らせる社会づくり

2 位置づけ

- 健康増進法に規定する市町村健康増進計画
- 千葉市新基本計画上の施策（健康づくりの推進、子育て支援の充実）に係る行動計画
- 「健やか親子21（第2次）」の基本的な考え方も反映した、地域特性や実情を反映した本市独自の計画

3 計画期間

平成25年度～令和5年度（11年間）
※平成29年度に中間評価・見直しを実施。令和3年度に計画期間を1年延長。

4 基本理念

すべての市民が支え合いながら、心豊かに暮らせる活力に満ちた「健やか未来都市ちば」をめざします。

最終評価の目的と方法（P10）

1 目的

計画策定時及び中間評価・見直し時に設定した138指標の健康目標の達成状況や関連する取組みの状況を評価・分析し、次期計画の策定に向けて、今後の健康づくりに関する課題について考察する。

2 方法

指標設定時のベースライン値及び目標値と最終値を比較し、その達成状況について、「◎（達成）」、「○（改善）」、「△（ほぼ変化なし）」、「×（悪化）」、「－（評価不能）」の5段階で評価した。「－」は出典調査の項目変更等で最終値が取得できなかったもの

II 健康目標の達成状況（全体）（P11）

◎	○	△	×	－
40指標 (29.0%)	20指標 (14.5%)	63指標 (45.7%)	10指標 (7.2%)	5指標 (3.6%)

＜総括＞

- 健康目標（全138指標）のうち、全体の43%に当たる60指標が目標達成又は改善となっている。
- 「がん」「糖尿病」「COPD」「次世代の健康①思春期」「飲酒」で、目標達成又は改善の指標が7割以上。
- 「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養」で、ほぼ変化なし又は悪化している指標が8割以上。

III 重点項目の達成状況と評価（P21~P22）

中間評価で改善が遅れていた分野のうち、特に力を入れる必要があると考える5分野を重点項目として位置付け、取組みを推進。

1 重点項目1：育児不安の軽減（分野：次世代の健康④育児不安）

◎：1指標	○：0指標	△：8指標	×：0指標	－：0指標
-------	-------	-------	-------	-------

2 重点項目2：働き盛り世代の糖尿病予防（分野：栄養・食生活/身体活動・運動）

◎：0指標	○：0指標	△：4指標	×：0指標	－：0指標
-------	-------	-------	-------	-------

3 重点項目3：高齢者の健康づくり（分野：高齢者の健康/地域の絆による社会づくり）

◎：0指標	○：0指標	△：1指標	×：0指標	－：1指標
-------	-------	-------	-------	-------

4 重点項目4：食塩摂取量の減少（分野：栄養・食生活）

◎：0指標	○：0指標	△：1指標	×：0指標	－：0指標
-------	-------	-------	-------	-------

5 重点項目5：たばこによる健康影響の低減（分野：COPD/喫煙）

◎：2指標	○：3指標	△：2指標	×：0指標	－：0指標
-------	-------	-------	-------	-------

＜総括＞

- 「たばこによる健康影響の低減」は概ね改善したが、その他4項目では、ほぼ変化なしの状況で改善がみられなかった。

IV 基本目標の達成状況と評価（P12~P20）

1 基本目標1：自分は健康であると感じ、いきいきと暮らしている市民を増やそう。（主観的健康観の向上）

自分の健康をよいと思っている人の割合	34.7%	→	39.2%	△
--------------------	-------	---	-------	---

2 基本目標2：市民一人ひとりが、主体的に健康づくりに取り組もう（主体的な健康づくり）

◎：11指標	○：2指標	△：17指標	×：1指標	－：0指標
--------	-------	--------	-------	-------

3 基本目標3：生涯を通じて健康づくりに取り組もう（ライフステージに応じた健康づくり）

乳幼児期	◎：8指標	○：7指標	△：19指標	×：2指標	－：0指標
学童期	◎：3指標	○：0指標	△：3指標	×：4指標	－：0指標
思春期	◎：6指標	○：5指標	△：7指標	×：0指標	－：0指標
青年期	◎：6指標	○：0指標	△：10指標	×：0指標	－：0指標
壮年期	◎：12指標	○：2指標	△：13指標	×：3指標	－：0指標
高齢期	◎：13指標	○：3指標	△：11指標	×：3指標	－：3指標
15歳以上共通	◎：1指標	○：2指標	△：7指標	×：0指標	－：2指標

4 基本目標4：みんなで支え合う地域社会を育み、健康づくりの輪を広げよう（健康を支援する環境づくり）

◎：4指標	○：4指標	△：11指標	×：0指標	－：3指標
-------	-------	--------	-------	-------

＜総括＞

- ライフステージ別にみると、学童期で悪化している指標の割合が大きい。
- 各ライフステージを通じ、ほぼ変化なし又は悪化している指標が多いのは、「栄養・食生活」と「身体活動・運動」の分野である。

V 分野別の評価及び今後の課題等（P23~P72）

1 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

健康寿命の延伸と健康格差の縮小（P23~） ◎：2 ○：0 △：1 ×：0 －：0

⇒ 主体的な健康づくりの重要性について広報・啓発を行い、市民の意識醸成を図る

＜総括＞

- 健康寿命は男女ともに延伸し、「平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加」を達成したが、女性においては中間値と比較すると悪化しているため、引き続きこれまでの取組みを推進する。

2 生活習慣病の発症・重症化予防の徹底

1 がん（P26~） ◎：7 ○：1 △：2 ×：0 －：0

⇒ 女性の受診率を高めるため継続的に再勧奨や受診しやすい環境づくりに取り組む

2 循環器疾患（P28~） ◎：3 ○：1 △：6 ×：1 －：0

⇒ 高血圧や脂質異常症について、さらなる啓発方法を検討

3 糖尿病（P31~） ◎：3 ○：0 △：1 ×：0 －：0

⇒ 適正な生活習慣の実践等の発症予防と健診受診による早期発見と受療勧奨に取り組む

4 COPD（慢性閉塞性肺疾患）（P33~） ◎：0 ○：1 △：0 ×：0 －：0

⇒ COPDの認知度向上のため、これまでの取組みを引き続き推進する

＜総括＞

- 「がん」「糖尿病」「COPD」は目標達成又は改善した指標が多く、「循環器疾患」はほぼ変化なし又は悪化した指標が多く見られた。
- 生活習慣病は、栄養・食生活、身体活動・運動など他分野の健康目標と密接に関わるため、これら健康増進に寄与すると考えられる一次予防の取組みを継続することが重要である。

3 社会生活に必要な機能の維持・向上

1 こころの健康（P35~） ◎：1 ○：1 △：1 ×：0 －：0

⇒ 心身の健康保持に望ましい生活習慣やメンタルヘルス相談窓口等のさらなる周知

2 次世代の健康 ①思春期（P38~） ◎：2 ○：0 △：0 ×：0 －：0

⇒ 学校や関係課・機関が連携し、性教育や保健指導等に取り組む

2 次世代の健康 ②妊娠・出産・不妊（P40~） ◎：2 ○：0 △：2 ×：0 －：0

⇒ プレコンセプションケアを推進する他、産後うつ等の早期発見・支援に取り組む

2 次世代の健康 ③小児保健医療（P42~） ◎：2 ○：3 △：8 ×：1 －：0

⇒ 乳幼児健診の受診勧奨の他、事故予防やかかりつけ医を持つこと等の一層の周知

2 次世代の健康 ④育児不安（P44~） ◎：4 ○：5 △：10 ×：1 －：0

⇒ 妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実及び各種機関との連携強化

3 高齢者の健康（P47~） ◎：0 ○：2 △：1 ×：0 －：3

⇒ 通いの場での介護予防教育やフレイル疑いの者への保健指導を全区で実施・充実

＜総括＞

- 「こころの健康」は、法や体制整備により改善傾向にあるが、「次世代の健康」は、目標達成・改善の指標も多く含まれるものの、ほぼ変化がない指標も見られた。
- 妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実や相談先の周知啓発強化など、育児不安の軽減を図るための取組みが求められる。
- 「高齢者の健康」は、前期・後期高齢者の各世代の健康づくりに関する周知啓発や取組みを強化するとともに、通いの場の充実や地域活動などに参加しやすい環境づくりなど、社会参加を促す仕組みが必要である。

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

1 地域の絆による社会づくり（P50~） ◎：0 ○：0 △：0 ×：0 －：2

⇒ 地域の支え合いの力を高め、ひとりぼっちにしない、断らない相談支援体制を構築

＜総括＞

- 健康日本21（第二次）最終評価報告書においても「地域のつながりの強化は、健康づくりに貢献すると考えられる」と指摘されており、引き続き地域の支え合いの体制づくりを推進していくとともに、次期計画策定に向けて設定すべき指標を検討する。

5 生活習慣及び社会環境の改善

1 栄養・食生活（P53~） ◎：2 ○：0 △：12 ×：4 －：0

⇒ 食生活改善に向け、健康無関心層も含めた、自然に健康になるための啓発強化

2 身体活動・運動（P57~） ◎：2 ○：0 △：7 ×：1 －：0

⇒ 運動習慣の重要性の啓発や、自発的に気軽に運動できる環境整備の検討

3 休養（P60~） ◎：0 ○：0 △：2 ×：0 －：0

⇒ 睡眠による休養の重要性や睡眠を阻害する因子等に関する効果的な啓発を検討

4 飲酒（P62~） ◎：1 ○：4 △：2 ×：0 －：0

⇒ 飲酒による健康被害、適正飲酒について、機会を捉えた啓発の充実を図る

5 喫煙（P64~） ◎：3 ○：2 △：6 ×：0 －：0

⇒ 受動喫煙を生じさせない環境づくりや市民意識の醸成に、より一層取り組む

6 歯・口腔の健康（P67~） ◎：6 ○：0 △：2 ×：2 －：0

⇒ 就労世代への口腔ケアに関する周知啓発強化やオーラルフレイルの予防・対策強化

＜総括＞

- 「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養」については、ほぼ変化なし又は悪化した指標が多く見られる。
- 「飲酒」「歯・口腔の健康」については、目標達成又は改善の指標が多く見られる。
- 改善が見られなかった「栄養・食生活」「身体活動・運動」については、意識啓発等により生活習慣の改善を促す従来の取組みに加え、ICT等のさらなる活用を選択肢とするなど、市民がより参加・継続しやすく実際の行動変容につながっていく取組みが必要である。

1 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

No	指標	ベースライン	目標	最終評価時	最終評価	
1	健康寿命の延伸（日常生活動作が自立している期間の平均の延伸）	男性	健康寿命78.61年 平均寿命80.06年 不健康期間1.45年	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	健康寿命80.04年 平均寿命81.45年 不健康期間1.41年 (0.04年短縮)	◎
		女性	健康寿命83.36年 平均寿命86.70年 不健康期間3.34年	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加(R4年度)	健康寿命84.78年 平均寿命88.10年 不健康期間3.32年 (0.02年短縮)	◎
3	自分の健康を良いと思っている人の割合の増加	34.70%	増加	39.20%	△	

2 生活習慣病の発症・重症化予防の徹底

(1) がん

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価	
1	75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少（人口10万対）	76.8	73.9	70.1	◎	
2	がん検診受診率の向上	胃がん：男性	46.8%	50%	54.9%	◎
		胃がん：女性	39.7%	50%	45.7%	△
		肺がん：男性	34.3%	50%	60.2%	◎
		肺がん：女性	31.9%	50%	55.3%	◎
		大腸がん：男性	32.3%	50%	55.8%	◎
		大腸がん：女性	30.9%	50%	49.5%	○
		子宮頸がん	42.0%	50%	47.9%	△
		乳がん	43.6%	50%	57.7%	◎
		全体	38.7%	50%	54.8%	◎

(2) 循環器疾患

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価
1	脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少（人口10万対）	42.1	41.6	31.7	◎
2	虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少（人口10万対）	23	減少	17.1	◎
3	高血圧の改善（収縮期血圧の平均値の低下）	30.5	減少	31	△
4	脂質異常症の減少（LDLコレステロール160mg/dl以上の人の割合の減少）	13.3	減少	8.3	◎
5	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合の減少	132mmHg	減少	132.1mmHg	△
6	特定健康診査の実施率の向上	130mmHg	129mmHg	131.2mmHg	△
7	特定保健指導の実施率の向上	8.7%	6.2%	8.5%	△
8	成人の糖尿病を有する人の割合の増加の抑制	14.0%	8.8%	13.5%	△
9	合併症（慢性腎不全による年間新規透析導入患者数）の減少	28.0%	21.0%	31.0%	×
10	糖尿病の治療継続者の割合の増加	32.5%	45.5%	31.9%	△
11	血糖コントロール指標におけるコントロール不良者（HbA1cがNGSP値8.4%（JDS値8.0%）以上）の割合の減少	14.4%	22.5%	17.1%	○

(3) 糖尿病

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価
1	合併症（慢性腎不全による年間新規透析導入患者数）の減少	157人	減少	128人	◎
2	糖尿病の治療継続者の割合の増加	61.1%	75%	77.5%	◎
3	血糖コントロール指標におけるコントロール不良者（HbA1cがNGSP値8.4%（JDS値8.0%）以上）の割合の減少	0.93%	減少	0.82%	◎
4	成人の糖尿病を有する人の割合の増加の抑制	12.3%	抑制	13.5%	△

(4) COPD

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価
1	COPDの認知度の向上	22.7%	80%	33.4%	○

3 社会生活に必要な機能の維持・向上

(1) こころの健康

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価
1	自殺者の減少（人口10万対）	18.9	減少	15.3	◎
2	気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている人の割合の減少	9.6%	9.4%	9.6%	△
3	メンタルヘルスに関する情報や相談を受けられる体制のある職場の割合の増加	44.1%	100%	62.4%	○

(2) 次世代の健康

① 思春期

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価
1	10代の人工妊娠中絶数の減少	135件	減少	112件	◎
2	中学3年女子生徒のやせの割合の減少	3.5%	減少	2.6%	◎

② 妊娠・出産・不妊

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価
1	妊娠・出産について満足している人の割合の増加	92.5%	100%	90.1%	△
2	全出生数中の低出生体重児の割合の減少	9.6%	減少	8.8%	◎
3	極低出生体重児の割合の減少	0.8%	減少	0.7%	◎
4	妊娠11週以下での妊娠の届け出率の増加	92.2%	100%	95.0%	△

③ 小児保健医療

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価	
1	乳幼児を家や車に一人だけにするこがある家庭の割合の減少	11.8%	0%	2.8%	○	
2	心肺蘇生法を知っている親の割合の増加	57.5%	100%	73.2%	○	
3	不慮の事故による死亡率の減少（人口10万対）	1～4歳	3	半減	6.1	×
4		5～9歳	3	半減	0	◎
5		10～14歳	2.2	半減	0	◎
6	15～19歳	11.1	半減	6.5	○	
7	かかりつけ小児科医を持つ親の割合の増加	96.0%	100%	97.4%	△	
8	かかりつけ歯科医を持つ親の割合の増加	48.0%	増加	49.0%	△	
9	乳幼児健康診査受診率の向上	4か月児	95.6%	100%	92.6%	△
10		1歳6か月児	92.7%	100%	93.9%	△
11		3歳児	90.7%	100%	92.7%	△
12	育てにくさを感じた時に相談先を知っているなど対処できる親の割合の増加	4か月児	82.0%	90%	79.5%	△
13	1歳6か月児	75.4%	90%	76.5%	△	
14		3歳児	81.2%	90%	80.1%	△

④ 育児不安

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価	
1	育児に言いようのない不安を覚える親の割合の減少	4か月児	16.0%	減少	18.2%	△
2	3歳児	13.6%	減少	13.7%	△	
3		12.3%	減少	13.6%	△	
4	子どもを虐待していると思う親の割合の減少	4か月児	6.1%	0%	3.2%	○
5	1歳6か月児	9.0%	5%	5.9%	○	
6		3歳児	16.5%	10%	10.8%	○
7	ゆったりとした気分で過ごせる時間のある母親の割合の増加	4か月児	82.1%	増加	86.2%	◎
8	1歳6か月児	74.0%	増加	77.2%	△	
9		3歳児	75.2%	増加	74.0%	△
10	育児について相談相手のいない母親の割合の減少	4か月児	0.3%	0%	0.8%	△
11	1歳6か月児	0.8%	0%	0.6%	△	
12		3歳児	1.1%	0%	0.7%	△
13	出産後1か月の母乳育児の割合の増加	44.1%	60%	30.7%	×	
14	4か月児	84.2%	93%	91.7%	○	
15		1歳6か月児	90.9%	93%	92.8%	△
16	3歳児	94.1%	増加	94.1%	△	
17		4か月児	53.6%	増加	72.0%	◎
18	1歳6か月児	48.8%	50%	65.2%	◎	
19		3歳児	48.7%	50%	58.9%	◎
20	乳幼児揺さぶられ症候群（SBS）を知っている親の割合の増加	90.5%	100%	98.4%	○	

(3) 高齢者の健康

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価	
1	介護・支援を必要としない高齢者の割合の増加	85.0%	88.0%	82.2%	△	
2	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している人の割合の増加	25.2%	80%	44.4%	○	
3	低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合の増加の抑制	17.2%	22%	18.7%	○	
4	足腰に痛みのある高齢者の減少（人口千対）	男性	219	200	—	—
5		女性	270	260	—	—
6	この1年間に地域活動やボランティア活動に参加したことがある高齢者の割合の	23.8%	40.0%	—	—	

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

(1) 地域の絆による社会づくり

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価
1	困ったときは地域で支えあうことができるので安心だと感じる人の割合の増加	23.1%	40.0%	—	—
2	この1年間に地域活動やボランティア活動に参加したことがある人の割合の増加	22.2%	35.0%	—	—

5 生活習慣及び社会環境の改善

(1) 栄養・食生活

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価	
1	肥満傾向にある子どもの割合の減少（小学5年生の中等度・高度肥満傾向児の割合の減少）	男子	4.3%	減少	6.7%	×
2		女子	3.0%	減少	3.6%	×
3	適正体重を維持している人の割合の増加（肥満（BMI25以上）、やせ（BMI18.5未満）の減少）	20～60歳代男性の肥満者の割合 40～60歳代女性の肥満者の割合 20歳代女性のやせの人の割合	28.0%	20.0%	32.6%	△
4	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合の増加	朝食：小学5年生	24.3%	減少	26.4%	△
5		夕食：小学5年生	3.3%	減少	4.5%	×
6	朝食を欠食する人の割合の減少	朝食：中学2年生	49.0%	減少	46.2%	△
7		夕食：中学2年生	12.1%	減少	10.7%	△
8	朝・昼・夕の3食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの割合の増加	20歳代男性	17.4%	15%	17.4%	△
9		30歳代男性	34.1%	15%	11.5%	◎
10	朝食を欠食する人の割合の減少	20歳代女性	14.6%	減少	11.1%	△
11		30歳代女性	14.4%	減少	13.7%	△

(2) 身体活動・運動

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価	
1	日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施する人の割合の増加（身体活動量の増加）	20～64歳男性	46.0%	増加	47.6%	△
2	65歳以上男性	45.4%	増加	42.3%	△	
3		62.4%	増加	49.3%	×	
4	65歳以上女性	48.7%	増加	52.4%	△	
5		33.1%	36%	40.1%	◎	
6	20～64歳女性	28.0%	33%	27.2%	△	
7		65歳以上男性	55.0%	58%	52.7%	△
8	65歳以上女性	45.7%	48%	54.0%	◎	
9		男子	93.6%	増加	92.9%	△
10	1週間の総運動時間が60分以上の子どもの割合の増加	女子	85.4%	増加	83.7%	△

(3) 休養

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価
1	睡眠による休養を十分にとれていない人の割合の減少	22.0%	15%	23.5%	△
2	週労働時間60時間以上の雇用者の割合の減少	11.0%	5.0%	9.0%	△

(4) 飲酒

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価	
1	生活習慣病のリスクを高める量（1日あたりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上）を飲酒している人の割合の減少	男性	20.1%	13%	11.9%	◎
2		女性	11.6%	6.4%	15.2%	△
3	未成年者の飲酒をなくす	中学2年生男子	17.5%	0%	8.5%	○
4		中学2年生女子	17.5%	0%	5.7%	○
5		高校2年生男子	26.3%	0%	12.5%	○
6		高校2年生女子	28.9%	0%	10.4%	○
7	妊娠中の飲酒をなくす	4.1%	0%	1.1%	△	

(5) 喫煙

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価	
1	成人の喫煙率の減少	16.2%	12%	9.8%	◎	
2	未成年者の喫煙をなくす	中学2年生男子	1.7%	0%	1.3%	△
3		中学2年生女子	2.9%	0%	0.0%	◎
4		高校2年生男子	3.5%	0%	2.6%	△
5		高校2年生女子	2.8%	0%	2.1%	△
6	妊娠中の喫煙をなくす	4.9%	0%	3.7%	△	
7	受動喫煙の機会を有する人の割合の減少	行政機関	2.6%	0%	1.6%	△
8		医療機関	1.8%	0%	2.1%	△
9	※職場については、受動喫煙対策（全面禁煙または空間分煙）を講じていない職場の割合の減少	職場	32.2%	0%	13.7%	○
10		家庭	10.8%	3%	4.7%	○
11	飲食店	34.5%	15%	9.4%	◎	

(6) 歯・口腔の健康

No	指標	ベースライン	目標	最終値	最終評価
1	3歳児でう蝕がない子どもの割合の増加	77.1%	90%以上	90.8%	◎
2	12歳児でう蝕がない子どもの割合の増加	68.4%	増加	77.6%	◎
3	60歳代における咀嚼良好者の割合の増加	71.5%	80%	81.4%	◎
4	70歳で22歯以上の自分の歯を有する人の割合の増加	75.7%	増加	83.4%	◎
5	60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合の増加	84.4%	増加	91.3%	◎
6	中学2年生における歯肉に炎症所見を有する子どもの割合の減少	29.3%	25%	23.1%	◎
7	20歳代における歯肉に炎症所見を有する人の割合の減少	28.9%	25%	30.0%	△
8	40歳代における進行した歯周炎を有する人の割合の減少	39.4%	25%	45.7%	×
9	60歳代における進行した歯周炎を有する人の割合の減少	49.2%	45%	54.4%	×
10	過去1年間に歯科検診を受診した人の割合の増加	54.9%	65%	58.3%	△

<参考：分野別評価割合>

